No. 105 May 2019

AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社

〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel / fax 042-725-6250
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

「乾燥」と「古代文明」のつながり

岡山県の大紀産業株式会社（以下、大紀産業）とのおつきあいは、弊社のスーダンにおける知見・経験の蓄積とネットワークからタマネギ乾燥事業の立ちあげをこころざしたことにはじまる。現場ニーズを最重視し、JICA 案件化調査への提案を共同で企画したのが 2015 年 4 月のことであり、もうかれこれ 4 年の歳月がながれた。案件化調査の準備から実施にいたる経緯と概要についてはAAINewsのミニシリーズ第94号以降でふれている。案件化調査は、国内トップシェアをほこる電気乾燥機メーカー・大紀産業と長年にわたり乾燥地をめがけてコンサル業を展開してきた国際耕種との「乾燥」コラボのはじまりでもあった。

案件化調査で大紀産業は 120kg 処理の電気乾燥機（E-30）をスーダン・カッサラ州にもちこんだ。E-30 は、当時国内最大級の電気乾燥機であり、大紀産業の主力商品であった。しかし、いざ製品を現地で試用してみると、品質・性能に対しては高い評価が与えられる一方、タマネギ生産量に比して 1 回の処理量が農家の期待を下まわるなどの課題が判明した。この課題に対処するため、大紀産業はいち早く倍量の処理能力を有する、E-60 の開発をすすめていくことになる。他方、案件化調査の実質的成果のひとつとして、ケニア開催の TICAD VI をへて、日本外務省の経済社会開発計画（旧ノンプロ無償）の採択があり、ODA 案件として実施された。この案件では、E-30 機種 23 基がスーダン・カッサラ州 4 ヶ所、ハルツーム州 3 ヶ所、リバーナイル州 3 ヶ所の計 10 ヵ所に導入・配置された。

スーダンで大紀産業の電気乾燥機の運用が着実にひろがるなか、万全を期して、JICA 普及・実証事業（2018 年 10 月開始）で新型機種 E-60 の導入がすすめられることになった。普及・実証事業では、案件化調査での試用成果をふまえ、より農家組合の実践にちかづけて、E-60 型 3 基をつらねた乾燥工場としての実証をめざしている。詳細内容については、いずれミニシリーズとしてあらためて紹介したいと考えている。

さて、大紀産業とのつながりは「乾燥」のほかにもあった。それは「古代文明」への関心である。国際耕種がおもな活動の舞台としてきた乾燥地ははからずも古代文明の発祥の中心であり、業務のかたわら遺跡・史跡をたびたび訪れ、人類文化史に造詣のある社員がすくなからずいる。スーダンは、エジプトと近接する関係で相互に影響を与えてきたクシュ（ヌビア）文明の存在があるため、筆者などもその歴史について調べてみたりしている。ところが、大紀産業の安原社長もスーダン出張の休日には国立ハルツーム博物館に足しげく通われる。さらに、同博物館の展示品を岡山市立オリエント博物館特別展に借用できないか交渉されたりもする。通うだけならまだしも展示品の交渉!? 、といぶかっていると、やがてその理由があきらかとなった。じつは、岡山市立オリエント美術館は安原社長の御祖父・故真二郎氏のオリエント美術品コレクションの寄贈がもとで設立された由。そんな話を聞いたもので、昨秋岡山で事業のキックオフ会を開催した折りには、是非に、と美術館案内をしていただくことになった。共通テーマである「乾燥」とともに、「古代文明」をキーワードにして、大紀産業とともに活動していきたいと考えている。

（2018 年 4 月 古賀直樹）